

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2007.0323
【第3号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

[HOMEPAGE](#)

[SCHEDULE](#)

[EVENTetc](#)

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1. 利用者さんの声 千束館 大石銀蔵さん
2. 事業所探訪その5 ヘルパーステーションふるさと(有限会社ひまわり)
 - その6 ふるさと千束館
3. 成年後見人制度関係の研修参加報告
4. 今月のボランティア募集

1. 利用者さんの声 千束館 大石銀蔵さん

ふるさとの会メールマガジンでは、いつもは職員による記者チームが取材・執筆したものを掲載していますが、今回は、ふるさとの会の宿泊所に入所されている利用者さんからのお手紙を紹介させていただきます。この手紙を寄せてくださった大石さんは、昭和4年生まれの77歳、千束館に入所されてから約一年になります。メモ魔の大石さんは、日頃感じたこと、調べたことなどを克明に記録し、一冊のファイルにまとめておられます。通信兵として歴史的なイベントにも立ち会った経験もある彼は、復員後、建築士(大工)として戦後の復興に尽力。脳性まひの子供さんをつれた方と結婚後、福祉制度作りの運動にのめり込んでいきました。

今回、お手紙を寄せてくださったきっかけは、長年福祉の世界を見てきて、こんな施設は見たことがなく、こういうところが東東京だけでなく、西東京にもあったらいいなあと思ったからとのこと。曰く、「引き上げる人もいれば、後押しする人もいる。いいことも知れば応援してくれる人も、恩恵にあずかれる人も増える。だから、ふるさとの事を広く多くの人に知ってもらいたい。そのためには、私の記録も役に立つなら使って欲しい」目を輝かせて夢を語る大石さん、また、お話を聞きに行きたいと思えます。

(ウラベノリコ)



ふるさとホテル三晃の1階と5階のスロープも大石さん作



大石さんが利用されているふるさと千束館

ふるさとの職員ご一同様

お礼状

私も千束館に入所させて頂き一年になります。入所して初めて知った此の世界、感動しました。私も兄と長男が脳性小児麻痺だったので、福祉活動の仲間入りして60年になります。

大東亜戦争の時は司令長官のお供で、アメリカの戦艦ミズーリ号で終戦調印式、マッカーサー元帥とも会いました。復員したら、東京は焼け野原。復興仕事に従事しました。

台風の災害復興工事中、兄は感電死しました。消防団が来てくれた時にはもう手遅れでした。つくづく障害者の脳につける薬のないみじめさを感じました。

昭和24年には、身体障害者福祉法、昭和28年には心身障害者福祉基本法の制定運動に、親の会の会長として、関東、東海、北陸と設立運動に回りました。昭和35年ねむの木学院宮城まり子さんの応援やあさひ学園の設立に参加。

それから40年がすぎ、今は逆転し福祉を受ける身となりました。ふるさとに入所してから、山谷堀の花見、上野動物園の見学、大江戸博物館見学、花火大会、夏祭り、敬老会、水族館、秋の旅行、百花園の散歩と最高の幸せでした。

一句 至福の薫り いま花盛りの百花園

私も命ある限り、福祉活動に参加し、施設の修理花壇作りにつくしたいと思います。ふるさと事業も益々栄え、多くの人達の幸福と人助け、お願いします。

3月12日

千束館 大石銀蔵

2.事業所探訪その5&その6

♪その5 ヘルパーステーションふるさと(有限会社ひまわり)♪

今回は、ふるさとの会の介護部門を一手に担う“ヘルパーステーションふるさと(有限会社ひまわり)”の事務所にお邪魔しました。

ヘルパーステーションふるさとは、介護プランを作成するケアマネージャー2名と、実際に介護にあたるヘルパー30名程で運営され、台東区・墨田区等にヘルパーを派遣しています。

ヘルパーステーションふるさとの利用者さんは、全部で110名程いらっしゃいます。そのうちの8割はふるさとの会が運営する宿泊所等で生活されている方で、その他地域の各家庭にもヘルパーを派遣しています。

ヘルパー派遣業務だけでなく、福祉事務所との連絡調整や、ホームレスを経験された方の自立への一助として、ヘルパー2級などの資格取得の支援も行っています。その上で、雇用の受け皿として生活保護の被保護者や雇用弱者の受け入れ先としての機能も果たしています。また、先月号でご紹介した、自立援助ホーム東駒形荘の運営も合わせて行っています。

ヘルパーステーションふるさとの職員にお話を聞きました。「大変なお仕事だと思いますが、どんなときにやりがいを感じますか」との質問に、皆さん口を揃えて「やっぱり、利用者さんの笑顔が見られる瞬間ですね」と言っていました。「プライベートで落ち込んでいたとしても、利用者さんに逢うと、気持ちが落ち着いて嫌なことも忘れられるんですよ」とケアマネージャーの崎原さんは言います。

忙しい中を取材に入らせていただきましたが、笑顔の絶えない明るい雰囲気がかげえました。ホテル三晃にて、実際に介護をしている様子も取材させていただきました。できることは利用者さん自身でやってもらうようにしながらも、暖かく見守っている姿が印象的でした。
(金井麻衣子)



ヘルパーステーションの皆さん 介護ベッドで練習に励んでいます ホテル三晃でのお仕事の現場を直撃！

一口MEMO 有限会社ひまわりとは？

宿泊所運営と介護サービスの提供を明確に分離するため、2002年9月「有限会社ひまわり」を設立し、介護サービス事業についてはヘルパーステーションふるさとの事業として運営しています。

事業者番号: 1370601245

♪その6 ふるさと千束館♪

今回お邪魔したのは、ふるさと千束館です。ちなみに、ふるさとの会最初の宿泊施設で、1999年6月に設立されました。ふるさと千束館の対象利用者は、生活面や健康面で問題を抱えていて、生活支援が必要な単身男性となっています(定員20名)。最近では、退院後の受け入れ先として、入所されるかたもいるようです。また、地域社会で自立するための中間・通過施設の役割もあり、地域のアパートで自立し、働く方も増えてきています。ふるさとの会の施設では、ホテル三晃等で仕事をしてもらい、自立をサポートしています。

関連施設等の連携としては、福祉事務所との連絡・調整や医療や介護も利用することもできるようにしています。そして、ふるさとの会からは、ヘルパーの派遣や就労チームによる一日2回の清掃や給食センターによる栄養士作成の献立による食事を提供しています。

取材中、午後2時からのコーヒータイムと重なり、利用者の皆様が食堂に集まり、コーヒーなどを飲みなが

ら、リラックスしていた姿が印象的でした。また、ふるさとの会の就労チームの清掃の時間やヘルパー・看護士の援助の時間とも重なりました。このように、利用者の皆様が安心し、安定した生活を送るには、様々な社会サービスや環境づくりが必要であると言えるでしょう。

(西川雄啓)



ふるさと千束館山形館長



リビングでヘルパーStふるさとの職員と談笑する

先日、千束館入所者のお一人、大石銀蔵さんが素敵なメモを手渡してくださいました。職員として大変励みになるものでしたので、ここで紹介させていただきます。

ふるさと千束館の日課 19.3.9

1. 親しき仲にも礼儀あり 朝のおはよう
2. 囲碁将棋で頭の体操
3. 折り紙細工でボケ防止
4. カラオケでストレス発散 大笑い
5. 散歩してきれいな酸素で健康に
6. 言葉をかけよう 同じ立場の人びとに
7. ひと言の思いやりが癒しの輪がひろがる
8. 老人の言語行動は何よりも尊い
9. 介護保険で元気になるよ ヘルパーさんありがとう
10. ミーティング 皆で生かそう生活習慣
11. 特技を生かして社会参加しよう
12. 元気になってNPO活動に参加しよう
13. 試行錯誤で新しい物を作りだそう
14. 皆で守ろう集団生活 整理・整頓・清潔
15. ふるさと千束館の文化を育てよう

3.成年後見人制度関係の研修参加報告

今年の2月7日に京都市で日本精神保健福祉士協会が主催した「権利擁護に関するシンポジウム」に、ホテル三晃の田辺館長が出席したと聞きましたので、講演内容と感想を聞きました。講演の主眼は、成年後見制度と自己決定支援。

- ①「意思決定困難層」と言われる、認知症高齢者、知的障害者、精神障害等が日常生活で損害を受けないように、法律的に本人の権利を守る制度に対する説明と、後見人が関わる際の権利を侵害しかねないリスクについて議論があった。
- ②本人が後見人を選ぶ任意後見人と、家庭裁判所が後見等を必要とする人の判断能力の程度に応じて後見人を選ぶ成年後見人がある。後見人に資格は求められず個人、NPO法人、弁護士、MSWが後見人になる時も多い、とのこと。
- ③マルチ商法に引っかかった認知症高齢者に、業者から現金を取り戻したケースもある一方、後見人が利用者の現金を使い込んでしまったケースもある、との報告があった。

「三晃の利用者は判断能力が落ちている人も多し、判断能力がある人にも日々助言はしている。けどもっと大事な判断について、後見人に頼む場面も出てきたときに、後見人制度につなぐまでもが宿泊所の役割になって来るんだろうね。」と、田辺さんは言った。

宿泊所の利用者がアパート転宅後などに、生活の展開によっては成年後見人が必要なケースがあるのかもしれませんが。早めの情報提供が効果的なら、適切な知識を持って対応していく必要性を強調していました。(大塚直史)

4.今月のボランティア募集

名ばかりの冬は早くも去り、陽光いっぱい春がやってきました。皆さまいかがお過ごしですか？ふるさとの会では、次年度に向けて忙しいが続いています。

そんな中ですが、せっかくの春の日、利用者の皆さまにゆっくり楽しんでもらおうと地域生活支援センター合同イベントとして、3月30日(金)山谷堀公園での花見を計画しています。満開の桜を眺めながらお弁当を食べ、カラオケをして楽しんでいただこうと思っています。ふるさとの会の各宿泊所からもできるだけたくさんの方に参加していただけるよう、介助の必要な方への付き添いボランティアを募集しています。お気軽にお問い合わせ下さい。

日 時:3月30日(金)11:00~13:00
(活動時間は10:30~14:00を予定)
場 所:山谷堀公園(集合場所は別途お知らせします)

<連絡先> 地域生活支援センター『すみだ』03-5819-3254 (担当:古木)

なお、敬老室日曜開放の特別行事も毎月第3日曜日に昼食会&イベントを行っております。今月は折り紙教室&カラオケ大会を行いました。こちらも是非ご参加下さい。

<連絡先> 城北福祉・労働センター別館『敬老室』03-3801-0377 (担当:秋山)

ふるさとの会ホームページも更新中！ぜひご覧下さい

<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会
〒111-0031東京都台東区千束4-39-6
TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950
E-mail : hurusato@d5.dion.ne.jp
HP : <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>